



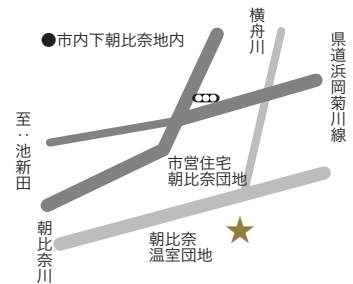
History

キラリを再発見

昔の生活が分かる重要遺跡

昭和40年に静岡大学の内藤晃教授を指導者として、平成9、10年度には浜岡町教育委員会が主体となり発掘調査が実施されました。

同遺跡では、弥生時代中期から古墳時代初頭まで集落が営まれ、竪穴系平地住居跡や、米などを貯蔵する倉庫として使われた掘立柱建物跡などの遺構が発見されています。水田稲作のための水路などの施設や鋤といった木製農具、琴や祭殿に使われたと思われる平屋建物の柱、吉凶を占う骨角製品や土器、石器、金属製品など、当時の生活を知る上で重要な遺物も多数出土しています。初期水田農耕の時代を代表する遺跡です。



1 昭和40年度実施の発掘調査の風景。学生や関係者らが丁寧に現場を掘り起こし、遺物などを

発見した2 弥生時代中期の竪穴系平地住居跡（平成10年発見）3 弥生時代後期末の木製品や土器の出土状況4 平成9年に発見された着柄状態で出土した鋤

埋蔵文化財包蔵地

みなみや 南谷遺跡

本コーナーでは3回に渡り、発電所の津波対策を紹介しました。中部電力では平成24年12月までに完了することを目標に工事を実施するとしています。

具体的には、①発電所敷地内の高台にガスタービン発電機を設置する②冷却設備に電力供給するための電源盤なども高所へ設置する③冷却用の海水を取水するポンプや、原子炉を冷やすために必要な機器の予備品を確保するなどです。

●緊急時の冷却機能を確保
東日本大震災により、福島第一原子力発電所内で発生した「全交流電源喪失」と「海水冷却機能喪失」。中部電力は、浜岡原子力発電所内で同一の事象が起こったとしても、冷却機能が確保され、確実に安全に原子炉を冷温停止することができるよう「緊急時対策を強化する」としています。

Atomic

暮らしと原子力

シリーズ 発電所の津波対策③

